

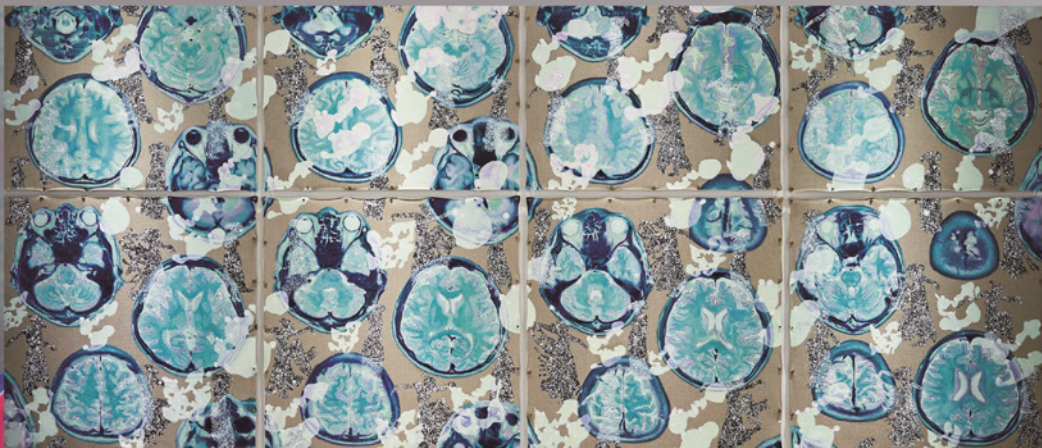


寺岡波瑠《虚構の廃墟、現実のホワイトキューブ》2019年、建築素材、芯地、撮影：来田猛

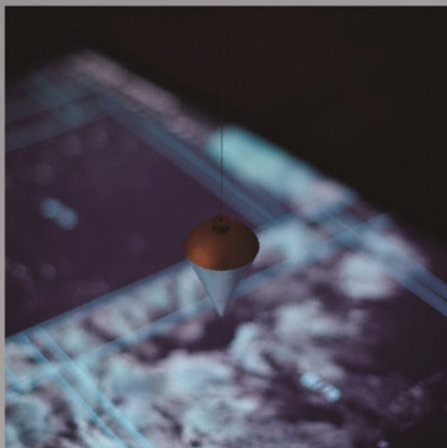
《設備スペース》2025年、ソーラーパネル、ターボリン、木材、撮影：守屋有樹



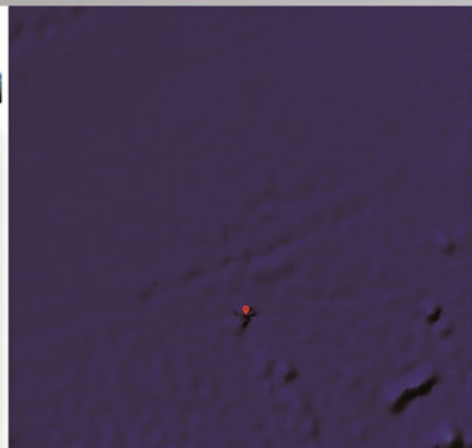
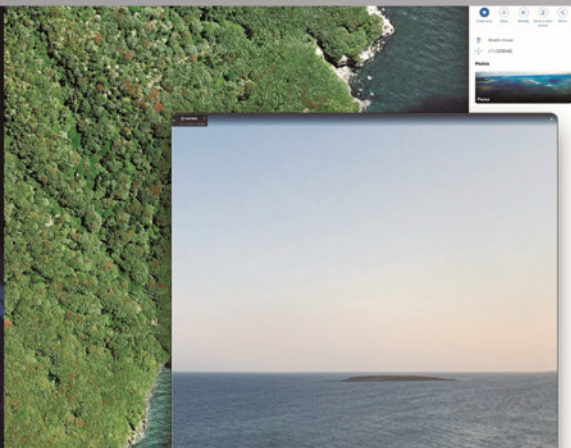
新平 誠汰《Phantom Paint #2》2025年、油彩、キャンバス、撮影：来田猛



《Trinocular rivalry #1-#8》2023年、油彩、キャンバス、撮影：河内彩



肥後 亮祐《Sandy Island》2020年、ミクストメディア、撮影：仲田絵美



《Null Island》2021年、ミクストメディア

HARU TERAOKA

SEISHU NIIHIRA

RYOSUKE HIGO

京セラギャラリー2025年 秋季特別展

主催

京セラ株式会社、京都市立芸術大学

EXPOSING

共済

京都市

後援

京都新聞、KBS京都、エフエム京都

企画

D ARTS

2025 11/1 sat-12/13 sat **Kyocera Gallery**

10:00-17:00 (入館は16:30まで) 日・祝休館/入館無料

EXPOSING

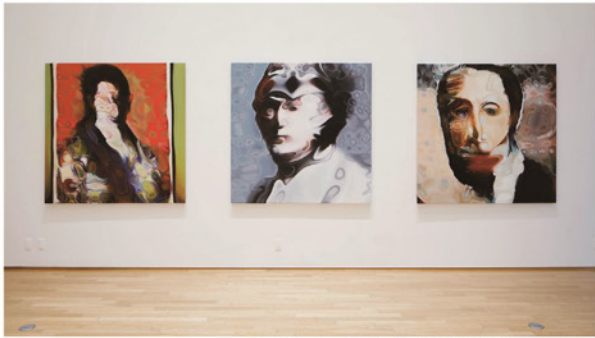
EXPOSING



《広島式オーダー》2020年、布、風船
撮影: Kenichi Harada

寺岡 波瑠 | Haru TERAOKA

1993年滋賀県生まれ。2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻(環境デザイン)修了。近代的合理性に貫かれた世界の中で、建築において一般的に遂行される様々な慣習や様式といった既存秩序や、建築物が取り壊される際のコンテキストに対して感じる疑問を題材に制作している。近年の主な展覧会に、「京都芸術センター開設25周年記念展『そのへんにあるもの』」(京都芸術センター、2025)、「学園前アートフェスタ 2024」(帝塚山学園18号館、2024)、「sanwacompany Art Award / Art in The House 2023」(サンワカンパニー東京ショールーム、2023)、「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2021」(ROKKO 森の音ミュージアム周辺 新池、2021) など。



《Phantom Paint シリーズ》2025年、油彩、キャンバス
撮影: 来田猛 [画像提供: アートコートギャラリー]

新平 誠洙 | Seishu NIIHIRA

1988年大阪府生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻(油画)修了。男女、内外、遠近など、相対するイメージの間にある曖昧な状態をリアリティととらえ、物体として強さを持つ絵画表現に定着させる。近年はAI画像生成技術を取り入れることで人間とAIの間にある創造性に焦点を当てた作品を制作している。近年の主な展覧会に個展「Ghost Painter」(Gallery TAGA2、東京、2025年)、個展「Phantom Paint」(アートコートギャラリー、大阪、2025年)、「METAMETA」(BnA Alter Museum / 京都、2023年)、「MEET YOUR ART FESTIVAL 2023」(寺田倉庫、東京、2023年)、「京都府新鋭選抜展」(京都文化博物館、京都、2022年) など。



肥後 亮祐 | Ryosuke HIGO

1995年北海道生まれ。2024年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻構想設計領域修了。博士(美術)。「Google Map」上に誤記載された幻島や「実在しない単語」など、流通する情報における盲点を遺物と捉え、社会や個人が無自覚にまたは意図的につくりだす事象や状況を考察し新たなかたちでの継承を試みている。近年は、「基準」や「貯蔵」を支える構造に焦点を当てた作品を制作している。近年の主な展覧会に「Osaka Directory 5 supported by RICHARD MILLE 肥後亮祐」(大阪中之島美術館、大阪、2023年)、「クリテリウム 97 肥後亮祐」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城、2020年)、「Parallel Circuit」(東京藝術大学大学美術館 陳列館、東京、2025) などがある。

このたび、京セラ株式会社・京都市立芸術大学との産学連携による「京セラギャラリー2025年 秋季特別展」として、『EXPOSING』を開催いたします。今日、商品の陳列から美術展に至るまで、私たちの身の回りにはさまざまなかたちの「展示」が繰り広げられていますが、一見中立的に映るその形式や制度の背景には、ものを分類し、価値を与え、見る者／見られる者の関係を操作する、強い力学が働いています。こうした「展示」の原型を遡ると、1851年のロンドンに始まり、その後ヨーロッパ諸国へと広まっていった「万国博覧会」にまでたどり着きます。万博は、国家と産業の威信を誇示する装置として、先にも述べた力学が最大限に発揮される催しでした。日本においては、1867年のパリ万博への正式参加を契機として、殖産興業を推進する気運が高まり、後に「内国勧業博覧会」という形で制度化されていくこととなります。そしてその流れの一端として、日本で初めて「博覧会」という名称を冠した催しが行われたのが、ここ京都でした。

本展では、そうした「博覧会」のもつさまざまな歴史的背景に取材した3名の作家による空間的・視覚的・制度的なアプローチを通して、無意識化されている「展示」の側面に光をあてます。建築家の寺岡波瑠は、これまで世界の諸相を建築的な構造によって解釈しながら、アレゴリカルな装置へと置き換えることで、暗黙のものとされている世界の不条理を提示してきました。また、相容れないはずのイメージを重ね合わせるしかたで絵画を描く画家の新平誠洙は、非決定的で曖昧な像を画面上に浮かび上がらせることで、対峙する者の「見る欲望」を刺激します。美術家の肥後亮祐は、たとえば地図や辞典、測定器といった私たちが盲目的に基準としているものの根拠を辿り、史実に潜むそれらの虚構性を明らかにしてみせます。本展『EXPOSING』は、3名の作家による表現を手がかりに、「博覧会」という近代的装置の機能について再考し、それによってかたちづくられてきた「展示」の構造を立体的に捉え直そうとします。そして、その内部で駆動している欲望のシステムを「展覧会」において可視化しようとしみます。

平野 成悟 (本展キュレーター)

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



京セラギャラリー

京セラ株式会社が社会貢献活動の一環として、1998年10月に本社ビル1階に開設した無料公開のギャラリーです。地域振興と文化発展を願い、ピカソの銅版画「347シリーズ」や日本画・洋画・彫刻、中国清代の乾隆ガラス、ファインセラミック製の茶器など、収蔵品の一部を展示しています。また、「京都にゆかりのある若手作家の支援」や「障がいのある作家の支援」を目的として、大学や団体と連携した特別展を1~2回開催しています。

京都市伏見区竹田鳥羽殿町6
京セラ株式会社 本社ビル1F

【ご注意】

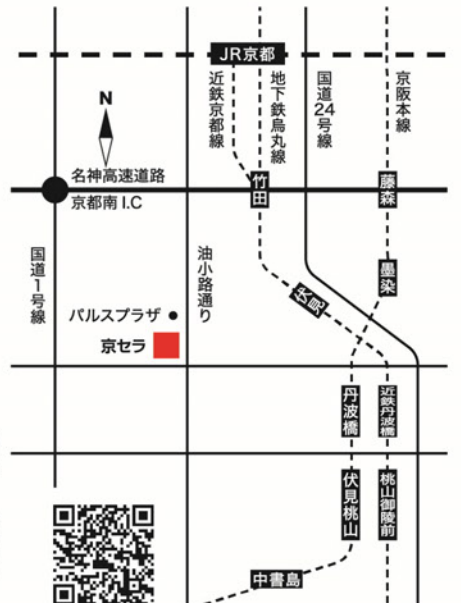
本展は個人での見学は予約不要です。
団体(10名様以上)のご利用は事前予約制となります。
当館「京セラギャラリー」と「京都市京セラ美術館」は別の施設となります。お間違のないようにお願いします。

【お問合せ】

展示に関する問い合わせ: TEL 075-604-3518
見学に関する問い合わせ: TEL 075-604-6141
<https://www.kyocera.co.jp/company/csr/facility/gallery/>

【アクセス】

- 近鉄京都線または市営地下鉄烏丸線「竹田駅」西口下車、徒歩15分、または「竹田駅」西口よりバスで「パルスプラザ前」下車すぐ
- 京都駅八条口から直通バス「京都らくなんエクスプレス」に乗車、「京都パルスプラザ・京セラ前」下車すぐ
- 京阪中書島駅またはバス停「西大手筋」より竹田駅西口行バスで「パルスプラザ前」下車すぐ



EXPOSING